

MV 22 オスプレイの給油を口実にした、横田基地飛来の中止を求めます

外務大臣 岸田 文雄 様
防衛大臣 小野寺 五典 様
北関東防衛局長 渡邊 一浩 様

在日米軍は去る7月7日～8日にかけて、沖縄に駐留するMV22 オスプレイを、台風8号からの避難を口実に横田基地に飛来させようとしてきました。私たちはこれまで横田基地を使用する米軍機や自衛隊機による騒音被害に苦しめられ、やむを得ず裁判を繰り返してきました。その経緯についてはご承知のことと思います。

私たちはそうした立場から、7月7日横田基地を訪問し、飛来の中止を求める文書を第374空輸航空団司令官に渡そうとしましたが果たせませんでした。幸いにもMV 22 オスプレイの飛来は取り止めとなりました。これは私たち原告団だけではなく、基地周辺の5市1町に加え青梅市、あきる野市、日野市なども国に対して、MV 22 オスプレイが「横田基地へ飛来することがないよう」要請したことが、大きく影響したものと考えています。

ところがこうした周辺自治体や住民の切実な願いを、正面から踏みにじるように「陸上自衛隊札幌飛行場で、7月20日、北海道航空協会主催の第28回札幌航空ページェントに…MV 22 オスプレイを展示するため、経由地として7月19日に横田基地に飛来する」との情報が、国から基地周辺の5市1町に通告されました。これに対して5市1町は再度MV 22 オスプレイが「横田基地へ飛来することがないよう、改めて強く要請します。」と結んだ要請を国に対して行いました。

これまで国は、在日米軍から言われれば無批判にこれを受け入れ、地元自治体には通告するだけ、と言う態度をとり続けてきました。しかし私たちが取り組んできた裁判の経緯や地元自治体の対応を見れば、今回のMV 22 オスプレイの横田基地への飛来計画が、いかに民意を無視したものであるかはハッキリしていると思います。

今回の飛来の口実は、民間の行事である「札幌で行われる航空機の屋外展示会への展示のため、わざわざ途中横田基地で給油する」というもので、いつも国が声高に振りかざす「日米同盟と安全保障」に深い関係があるとはとても思えないものです。台風8号からの避難を口にした際は、空中給油機を同時避難させていることから言えば、わざわざ横田基地で給油する必要性はなく、MV 22 オスプレイの飛来を既成事実化して、将来的には常駐化する、もしくはCV22 オスプレイの配備を念頭に置いたためのものであろうかと推測せざるを得ません。そうな

れば、今でも耐え難い騒音被害がいつそう酷いものになることは明らかです。また、これまでも繰り返されてきた部品などの落下事故も増えることでしょう。さらには墜落事故への不安も、大きく現実味を帯びたものになってきます。

貴職におかれましては、裁判所から繰り返し断罪されてきた、横田基地に於ける違法な航空機騒音を少しでも軽減するとともに、基地周辺住民の不安や懸念を斟酌し、横田基地へのMV 22 オスプレイ飛来や、その常駐について断念するよう、強く要求いたします。

2014年7月11日

第9次横田基地公害訴訟原告団

団長 福本道夫

(連絡先) 〒196-0001 東京都昭島市美堀町3-13-1

TEL/FAX 042-542-5625

第2次新横田基地公害訴訟原告団

団長 大野芳一

(連絡先) 197-0003 東京都福生市熊川1655-3

白鳥第2ビル302

TEL/FAX 042-552-4451